

## 船舶・海洋特集の発刊に際して

執行役員  
交通・輸送ドメイン  
副ドメイン長 兼  
船舶・海洋事業部長

大倉 浩治  
Koji Okura



船舶・海洋特集の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

三菱重工は、2013年10月からドメイン体制に移行し、現在、4ドメイン体制のもと、グローバル市場に応えるべく種々の施策を展開し、新たな付加価値を有する製品をお客様へご提供するとともに、グローバル社会のさらなる発展に貢献すべく努めています。

船舶・海洋事業は、業界全体として世界の新造船需要に対し供給能力は依然として大きく、受注量の低下と船価の低迷が今後も継続するものと予想され、厳しい事業環境に置かれています。当事業部はこの厳しい事業環境のもと、長年培ってきた造船固有の技術を基盤とし、当社の総合技術開発力を駆使して付加価値の高い製品をご提供することにより、お客様の事業の発展に継続して貢献していく所存です。

事業展開としては、LNG、LPGなどを輸送するガス船建造は昨年10月に長崎で発足した新会社にて、国内の旅客フェリー、調査・研究船などの特殊高性能船などは下関にて建造し高付加価値・高技術船をお客様にご提供していきます。また、客船建造の知見を活かせる乗客重視の貨客船ROPAXの分野に、欧州マーケットも見据えて積極的に対応する方針であり、乗客重視の分野を、今後の三菱重工工業造船事業の柱の一つにしたいと考えています。

本特集号では船舶・海洋事業部の近年の成果の一部として、11件の新技術・新製品をご紹介しますとともに、長崎地区で発足した新会社のご紹介をします。

近年LNG需要が増加する中で、技術革新により生産性が向上した北米シェールガスの日本への輸送を想定し、従来のLNG船に比べ高経済性、低環境負荷、高汎用性を有する新型LNG船“サヤリンゴ STaGE”を開発しました。従来の真球タンクに比べ容積効率が大幅に向上する新型の非真球リング型タンク、それらを覆う連続タンクカバー、燃費性能が優れた推進プラント STaGE (Steam Turbine and Gas Engine)を装備した新型のLNG船をご紹介します。また、LNGのサプライチェーンについて、その洋上への展開についてもご紹介します。

旅客カーフェリーの省エネ技術では、軸発電機兼用の推進加勢モーターを有するデュアルハイブリット推進システム、及び2軸アジマス推進加勢の2機1軸推進システムをそれぞれ装備する最新鋭大型旅客フェリーの概要についてご紹介します。

環境保護技術として、福島県沖の浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業での風車浮体の

建造から設置, 国際海事機関(IMO)による NOx TierIII 規制に適合した UE 型エンジンの低圧 EGR の実船試験, さらに, IMO 排ガス SOx 規制に適合した船舶用 SOx スクラバーシステムの開発と実船試験の概要をご紹介します。

基礎開発技術として, 数値シミュレーションによる船体周りの高精度流場推定技術, さらに, プロペラ翼端渦キャビテーションの水中放射雑音予測技術の概要をご紹介します。

他造船所へのエンジニアリング事業の一環として, 当社で概念設計を行い, 他造船所にて基本設計の展開, 建造を行った最新鋭の 11000 総トン級の内航 RORO 船, 並びに 7000 台級の新パナマ運河可航型自動車運搬船をご紹介します。

最後に, 新会社の三菱重工船舶海洋株式会社, 三菱重工船体株式会社をご紹介します。

船舶・海洋事業部は新たな造船ビジネススキームの構築に向け邁進してまいりますが, 今後も新製品, 新技術の継続的な開発を行い, お客様, 並びに社会のニーズに応じていく所存です。皆様からの一層のご指導, ご支援を賜りますようお願い申し上げます。